

### 令和四年の初詣について

昨年同様感染対策を十分に行って皆様のご参拝をお迎え致します。ご協力のほどよろしくお願い致します。

残念ですが、甘酒接待は今回も見合わせる予定です。



### 七五三詣

10月～11月末

できるだけご予約下さい。



お札、お守、千歳飴、ぬり絵、紅葉枝か風車が付きます。

撮影用に和傘などの貸し出しもしています。

### 秋の法話会

十月二十四日

午後二時～二時四十分頃

時間を変更しております。ご注意ください。

### 写経・写仏の会

十一月一日

午後十時～参加費千円

### 秋の花暦

アキギリ	シユウメイギク	アキチヨウジ	紅葉	イソギク	サツマク	サザンカ
ダイモンジソウ	ホトトギス	アキチヨウジ	山リンドウ	キチジヨウソウ	サツマク	サザンカ
ツリフネソウ	ツリフネソウ	アキチヨウジ	山リンドウ	キチジヨウソウ	サツマク	サザンカ

## 「毘沙門天」「三十三観音」

### の修理を行います

「毘沙門天」は、インドの古い宗教から仏教に取り入れられた「財宝神」で「七福神の最高神」とされ、当寺では「商売繁昌・福德円満」の仏として本堂内でお祀りしています。

「毘沙門天」は、吉祥天と善膩師童子を両脇に従え、邪鬼の上に乗っています。

いずれも傷みがひどく、修理が急がれる状態となりました。本堂内の三十三観音も少しずつ修理を行いたいと思います。

毘沙門天ご真言 オン ベイシラ マンダヤ ソワカ  
観音菩薩ご真言 オン アロリキャ ソワカ

### 本堂修繕の準備を始めたいと思います

本堂も部分的に修理が必要な時期になってまいりました。

### 〈御寄進のお願い〉

ご寄進いただけます方は、本堂内の封筒に御住所・御芳名をお書きいただき、賽銭箱にお入れください。または、受所でもお受けいたします。御寄進額はお自由です。

郵便振替をご利用

いただいても結構です。

お寺にも振替用紙がございます。

郵便振替番号

(00900-5-52927)

### ことば

- 「だれもいのちの恵みをいただいている。だから、そこらじゅうへ返さないといけない。それが愛。」
- 「自力とは、自力としてあらわれるところの他力であり、他力とは、他力として確信されたところの自力である。」  
(自力と他力は反対方向のように見えますが、勇気をもって行動することにより、同じ意義があることに気づきます。)
- 「(個人的な)復讐心に囚われない明るいつつ返しこそ ヒーローへの道だ」  
(「〇倍返し」はよい結果を生まない。人間社会の複雑さを考えると、単純な応報戦略は“最強”ではなく、もう少し寛大な方がよい結果を生むとの研究結果があります。スイスの大学の研究。「半沢直樹」は個人的な恨みを社会的に認められた“制度”を使ってしつぺ返しをしました。)

# 味がロケーション

ハワイで自分の開いたシーフード店を大繁盛させている若いアメリカ人のインタビュー番組をテレビでやっていた。

ブラブラしていた十代の頃、父親にレストランでのアルバイトを勧められたのが、この道に入るきっかけだった。たぶん海に面した絶景の場所にレストランがあるのだろうと想像して、記者が探し尋ねると、裏通りの普通の店だった。

「オープンしたとき、友人はみな場所が悪いと言った。誰もロケーション、ロケーションと言ったが、ここしか手に入らなかった。しかし、レストランは味だ。美味しければ人は来てくれる。味がロケーションなのだ」

味がロケーションとは・・・若いオーナーの言葉に、私は驚いた。北近畿にある但馬の城下町出石も、そこに住み、生活をする人たちが知恵を出し合って築いた取り組みの結晶である。二軒だった蕎麦屋さんが、今は五十軒近くになっている。古いものと新しいものが調和して絵になっている。同じ近畿の夕日ヶ浦温泉は海岸が真西を向いているので、美しい夕日が見られる。一日の仕事を果たして燃え尽き、海に沈んでいく朱色の夕日。じっと見つめていると、自分とどこか似ている。だれもがそう感じるのではないだろうか。

出石は古い町家の町並みを、夕日ヶ浦温泉は癒しの夕日をロケーションにしておられる。自信をもって問いかけることのできる「自分のロケーション」を誰もが磨き出せるのではないだろうか。



住職著 『花寺和尚の心の花が開くとき』 (大法輪閣) 一部書き直しています。

※楽天、アマゾン、最寄りの書店でご注文頂けます。

## 如意寺の歴史②

～昭和(その二)～

明治33年(1900年)生まれの中村棟梁は20代で宮大工となり、昭和をその華々しい活躍の舞台とされた。中村棟梁とともにあった「当寺の昭和」について、以前の記事といささか重なるが、もう少し触れさせていたきたい。

天平2年頃(奈良時代・聖武天皇)創建された如意寺は、真言密教修行道場・万民帰依の祈願寺として観音山中腹の伽藍にあり、昭和39年(1964)時点で、開基以来1234年を経ている。現在の如意寺のある場所は日切不動尊、薬師如来、毘沙門天などを祀る飛び地境内であった。日切不動尊はずっとこの地に座しておられたのである。観音山伽藍は久美浜湾を眼下に見下ろす標高163mの山の中腹にあった。町から眺めると左右対称のなだらかで美しい稜線を持ち、深い樹林に覆われて厳かな気品を感じさせる。山の麓から数百段の石段を登ると、夏でも水蒸気が立ち上るほどの冷水の湧き出す境内にたどり着く。『如意寺だよりNo.14』にある「千日会」の記事のように、古来、多くの参拝者が、額に汗してお参りされた信仰の道であった。

しかし、徐々に便利さをよとする時代にあって、車道も電気もない山寺は、堂宇の修繕一つとっても困難が予想され、参拝の不便もあった。先代が全伽藍遷址を決断したのはそのような時代への先見でもあった。昭和39年、現在地に新庫裏を建立したのをはじめに、鐘楼・仁王門・本堂の移築、不動堂の3度に渡る建替えを始めとした境内の整備が少しずつ行われ、現在に至っている。着手以来、半世紀超を経たが遷址後の整備は今後も続けられなければならない。昔も今も、多くの篤志の参拝の方々、地域の皆様方のご支援なくしては考えられないことである。

遷址を決断、実行された先代住職は89歳で遷化され、昨年、13回忌の法要を行わせていただいた。この間のほとんどの工事は中村棟梁が弟子の宮大工さん達を率いて自ら成し遂げられたことを三度記して、昭和の項を終わりとしたい。

お読みいただきありがとうございました。(次回は平成)

対岸に見える観音山。

中腹に本堂の屋根が見える。



### ちよつとひと息

- 「また失敗 またまた失敗 だから何」 仏教標語より
- 「吾輩は凡夫である。自覚はまだない。」 仏教標語より
- 「お医者様に高音部の聴力が弱いと言われて、補聴器を付けてみました。付けたとたん、セミの声やせせらぎの音が耳に飛び込んできて大いに納得しました。」(住職)

『如意寺だより』は、年四回発行します。郵送ご希望の方は、下記へ何らかの方法でご連絡ください。無料でお送りします。「たより」をお友だちにもご紹介ください。

発行：如意寺 〒629-3409 京都府京丹後市久美浜町1845 TEL (0772)82-0163 FAX (0772)82-0563 E-mail:info@nyoiji.com HP:nyoiji.com